

医薬品インタビューフォーム

日本病院薬剤師会のIF記載要領2013に準拠して作成

経口用セフェム系製剤

日本薬局方 セフジニルカプセル

セフジニルカプセル 50mg 「日医工」

セフジニルカプセル 100mg 「日医工」

日本薬局方 セフジニル細粒

セフジニル細粒 10%小児用 「日医工」

Cefdinir

剤形	カプセル 50mg/100mg：硬カプセル剤 細粒 10%：細粒剤			
製剤の規制区分	処方箋医薬品（注意 - 医師等の処方箋により使用すること）			
規格・含量	カプセル 50mg：1カプセル中セフジニル 50mg（力価）含有 カプセル 100mg：1カプセル中セフジニル 100mg（力価）含有 細粒 10%：1g 中セフジニル 100mg（力価）含有			
一般名	和名：セフジニル 洋名：Cefdinir			
製造販売承認年月日 薬価基準収載・発売年月日		カプセル 50mg	カプセル 100mg	細粒 10%
	承認年月日	2009年 1月 8日	2007年 6月 29日	2007年 3月 15日
	薬価基準収載 発売年月日	2009年 5月 15日	2009年 5月 15日	2008年 11月 7日
開発・製造販売（輸入）・ 提携・販売会社名	製造販売元：日医工株式会社			
医薬情報担当者の連絡先				
問い合わせ窓口	日医工株式会社 お客様サポートセンター TEL：0120-517-215 FAX：076-442-8948 医療関係者向けホームページ https://www.nichiiko.co.jp/			

本IFは2020年9月改訂（第6版）の添付文書の記載に基づき改訂した。

最新の添付文書情報は、医薬品医療機器総合機構ホームページ

<https://www.pmda.go.jp/>にてご確認下さい。

IF利用の手引きの概要 —日本病院薬剤師会—

1. 医薬品インタビューフォーム作成の経緯

医療用医薬品の基本的な要約情報として医療用医薬品添付文書（以下、添付文書と略す）がある。医療現場で医師・薬剤師等の医療従事者が日常業務に必要な医薬品の適正使用情報を活用する際には、添付文書に記載された情報を裏付ける更に詳細な情報が必要な場合がある。

医療現場では、当該医薬品について製薬企業の医薬情報担当者等に情報の追加請求や質疑をして情報を補完して対処してきている。この際に必要な情報を網羅的に入手するための情報リストとしてインタビューフォームが誕生した。

昭和63年に日本病院薬剤師会（以下、日病薬と略す）学術第2小委員会が「医薬品インタビューフォーム」（以下、IFと略す）の位置付け並びにIF記載様式を策定した。その後、医療従事者向け並びに患者向け医薬品情報ニーズの変化を受けて、平成10年9月に日病薬学術第3小委員会においてIF記載要領の改訂が行われた。

更に10年が経過し、医薬品情報の創り手である製薬企業、使い手である医療現場の薬剤師、双方にとって薬事・医療環境は大きく変化したことを受けて、平成20年9月に日病薬医薬情報委員会においてIF記載要領2008が策定された。

IF記載要領2008では、IFを紙媒体の冊子として提供する方式から、PDF等の電磁的データとして提供すること（e-IF）が原則となった。この変更にあわせて、添付文書において「効能・効果の追加」、「警告・禁忌・重要な基本的注意の改訂」などの改訂があった場合に、改訂の根拠データを追加した最新版のe-IFが提供されることとなった。

最新版のe-IFは、（独）医薬品医療機器総合機構のホームページ（<https://www.pmda.go.jp/>）から一括して入手可能となっている。日本病院薬剤師会では、e-IFを掲載する医薬品情報提供ホームページが公式サイトであることに配慮して、薬価基準収載にあわせてe-IFの情報を検討する組織を設置して、個々のIFが添付文書を補完する適正使用情報として適切か審査・検討することとした。

2008年より年4回のインタビューフォーム検討会を開催した中で指摘してきた事項を再評価し、製薬企業にとっても、医師・薬剤師等にとっても、効率の良い情報源とすることを考えた。そこで今般、IF記載要領の一部改訂を行いIF記載要領2013として公表する運びとなった。

2. IFとは

IFは「添付文書等の情報を補完し、薬剤師等の医療従事者にとって日常業務に必要な、医薬品の品質管理のための情報、処方設計のための情報、調剤のための情報、医薬品の適正使用のための情報、薬学的な患者ケアのための情報等が集約された総合的な個別の医薬品解説書として、日病薬が記載要領を策定し、薬剤師等のために当該医薬品の製薬企業に作成及び提供を依頼している学術資料」と位置付けられる。

ただし、薬事法・製薬企業機密等に関わるもの、製薬企業の製剤努力を無効にするもの及び薬剤師自らが評価・判断・提供すべき事項等はIFの記載事項とはならない。言い換えると、製薬企業から提供されたIFは、薬剤師自らが評価・判断・臨床適応するとともに、必要な補完をするものという認識を持つことを前提としている。

[IFの様式]

- ①規格はA4版、横書きとし、原則として9ポイント以上の字体（図表は除く）で記載し、一色刷りとする。ただし、添付文書で赤枠・赤字を用いた場合には、電子媒体ではこれに従うものとする。
- ②IF記載要領に基づき作成し、各項目名はゴシック体で記載する。
- ③表紙の記載は統一し、表紙に続けて日病薬作成の「IF利用の手引きの概要」の全文を記載するものとし、2頁にまとめる。

[IFの作成]

- ①IFは原則として製剤の投与経路別（内用剤、注射剤、外用剤）に作成される。
- ②IFに記載する項目及び配列は日病薬が策定したIF記載要領に準拠する。
- ③添付文書の内容を補完するとのIFの主旨に沿って必要な情報が記載される。
- ④製薬企業の機密等に関するもの、製薬企業の製剤努力を無効にするもの及び薬剤師をはじめ医療従事者自らが評価・判断・提供すべき事項については記載されない。
- ⑤「医薬品インタビューフォーム記載要領2013」（以下、「IF記載要領2013」と略す）により作成されたIFは、電子媒体での提供を基本とし、必要に応じて薬剤師が電子媒体（PDF）から印刷して使用する。企業での製本は必須ではない。

【IFの発行】

- ①「IF記載要領2013」は、平成25年10月以降に承認された新医薬品から適用となる。
- ②上記以外の医薬品については、「IF記載要領2013」による作成・提供は強制されるものではない。
- ③使用上の注意の改訂、再審査結果又は再評価結果（臨床再評価）が公表された時点並びに適応症の拡大等がなされ、記載すべき内容が大きく変わった場合にはIFが改訂される。

3. IFの利用にあたって

「IF記載要領2013」においては、PDFファイルによる電子媒体での提供を基本としている。情報を利用する薬剤師は、電子媒体から印刷して利用することが原則である。

電子媒体のIFについては、医薬品医療機器総合機構の医薬品医療機器情報提供ホームページに掲載場所が設定されている。

製薬企業は「医薬品インタビューフォーム作成の手引き」に従って作成・提供するが、IFの原点を踏まえ、医療現場に不足している情報やIF作成時に記載し難い情報等については製薬企業のMR等へのインタビューにより薬剤師等自らが内容を充実させ、IFの利用性を高める必要がある。

また、随時改訂される使用上の注意等に関する事項に関しては、IFが改訂されるまでの間は、当該医薬品の製薬企業が提供する添付文書やお知らせ文書等、あるいは医薬品医療機器情報配信サービス等により薬剤師等自らが整備するとともに、IFの使用にあたっては、最新の添付文書を医薬品医療機器情報提供ホームページで確認する。

なお、適正使用や安全性の確保の点から記載されている「臨床成績」や「主な外国での発売状況」に関する項目等は承認事項に関わることもあり、その取扱いには十分留意すべきである。

4. 利用に際しての留意点

IFを薬剤師等の日常業務において欠かすことができない医薬品情報源として活用して頂きたい。しかし、薬事法や医療用医薬品プロモーションコード等による規制により、製薬企業が医薬品情報として提供できる範囲には自ずと限界がある。IFは日病薬の記載要領を受けて、当該医薬品の製薬企業が作成・提供するものであることから、記載・表現には制約を受けざるを得ないことを認識しておかなければならない。

また製薬企業は、IFがあくまでも添付文書を補完する情報資材であり、今後インターネットでの公開等も踏まえ、薬事法上の広告規制に抵触しないよう留意し作成されていることを理解して情報を活用する必要がある。

(2013年4月改訂)

目 次

I. 概要に関する項目	1	VI. 薬効薬理に関する項目	22
1. 開発の経緯	1	1. 薬理学的に関連のある化合物又は化合物群	22
2. 製品の治療学的・製剤学的特性	1	2. 薬理作用	22
II. 名称に関する項目	2	VII. 薬物動態に関する項目	23
1. 販売名	2	1. 血中濃度の推移・測定法	23
2. 一般名	2	2. 薬物速度論的パラメータ	25
3. 構造式又は示性式	2	3. 吸収	25
4. 分子式及び分子量	2	4. 分布	25
5. 化学名（命名法）	2	5. 代謝	25
6. 慣用名，別名，略号，記号番号	2	6. 排泄	26
7. CAS 登録番号	2	7. トランスポーターに関する情報	26
III. 有効成分に関する項目	3	8. 透析等による除去率	26
1. 物理化学的性質	3	VIII. 安全性（使用上の注意等）に関する項目	27
2. 有効成分の各種条件下における安定性	3	1. 警告内容とその理由	27
3. 有効成分の確認試験法	3	2. 禁忌内容とその理由（原則禁忌を含む）	27
4. 有効成分の定量法	3	3. 効能又は効果に関連する使用上の注意とその理由	27
IV. 製剤に関する項目	4	4. 用法及び用量に関連する使用上の注意とその理由	27
1. 剤形	4	5. 慎重投与内容とその理由	27
2. 製剤の組成	4	6. 重要な基本的注意とその理由及び処置方法	27
3. 懸濁剤，乳剤の分散性に対する注意	4	7. 相互作用	27
4. 製剤の各種条件下における安定性	5	8. 副作用	28
5. 調製法及び溶解後の安定	9	9. 高齢者への投与	29
6. 他剤との配合変化（物理化学的変化）	10	10. 妊婦，産婦，授乳婦等への投与	29
7. 溶出性	14	11. 小児等への投与	30
8. 生物学的試験法	17	12. 臨床検査結果に及ぼす影響	30
9. 製剤中の有効成分の確認試験法	17	13. 過量投与	30
10. 製剤中の有効成分の定量法	17	14. 適用上の注意	30
11. 力価	18	15. その他の注意	30
12. 混入する可能性のある夾雑物	18	16. その他	30
13. 注意が必要な容器・外観が特殊な容器に関する情報	18	IX. 非臨床試験に関する項目	31
14. その他	18	1. 薬理試験	31
V. 治療に関する項目	19	2. 毒性試験	31
1. 効能又は効果	19	X. 管理的事項に関する項目	32
2. 用法及び用量	20	1. 規制区分	32
3. 臨床成績	20		

2.	有効期間又は使用期限	32
3.	貯法・保存条件	32
4.	薬剤取扱い上の注意点	32
5.	承認条件等	32
6.	包装	32
7.	容器の材質	32
8.	同一成分・同効薬	32
9.	国際誕生年月日	32
10.	製造販売承認年月日及び承認番号	33
11.	薬価基準収載年月日	33
12.	効能又は効果追加，用法及び用量変更追加等の年月日及びその内容	33
13.	再審査結果，再評価結果公表年月日及びその内容	33
14.	再審査期間	33
15.	投与期間制限医薬品に関する情報	33
16.	各種コード	33
17.	保険給付上の注意	33
X I.	文献	34
1.	引用文献	34
2.	その他の参考文献	34
X II.	参考資料	34
1.	主な外国での発売状況	34
2.	海外における臨床支援情報	34
X III.	備考	35
1.	調剤・服薬支援に際して臨床判断を行うにあたっての参考情報	35
2.	その他の関連資料	37

I. 概要に関する項目

1. 開発の経緯

本剤は、セフジニルを有効成分とする経口用セフェム系製剤である。

セフジニル細粒 10%小児用「日医工」は、日医工株式会社が後発医薬品として開発を企画し、規格及び試験方法を設定、安定性試験、生物学的同等性試験を実施し、2007年3月15日に承認を取得、2008年11月7日に販売を開始した。（薬食発第0331015号（平成17年3月31日）に基づき承認申請）

セフジニルカプセル 50mg「日医工」及びセフジニルカプセル 100mg「日医工」は、日医工株式会社が後発医薬品として開発を企画し、規格及び試験方法を設定、加速試験、生物学的同等性試験を実施し、セフジニルカプセル 100mg「日医工」は2007年6月29日、セフジニルカプセル 50mg「日医工」は2009年1月8日に承認を取得し、2009年5月15日に販売を開始した。（薬食発第0331015号（平成17年3月31日）に基づき承認申請）

2. 製品の治療学的・製剤学的特性

- (1) 本剤は、セフジニルを有効成分とする経口用セフェム系製剤である。
- (2) カプセル 50mg/100mg の PTP シートのウラ面に「抗生物質」を表記した。
- (3) 細粒 10%は、香料としてストロベリーフレーバーを使用している。
- (4) 重大な副作用（頻度不明）として、ショック、アナフィラキシー、皮膚障害、血液障害、大腸炎、間質性肺炎、PIE 症候群、腎障害、劇症肝炎、肝機能障害、黄疸が報告されている。

II. 名称に関する項目

1. 販売名

(1) 和名

セフジニルカプセル 50mg 「日医工」
セフジニルカプセル 100mg 「日医工」
セフジニル細粒 10%小児用 「日医工」

(2) 洋名

Cefdinir

(3) 名称の由来

一般名より

2. 一般名

(1) 和名 (命名法)

セフジニル (JAN)

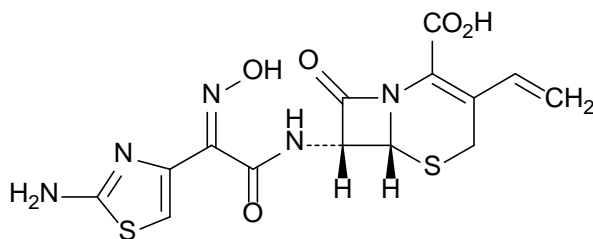
(2) 洋名 (命名法)

Cefdinir (JAN)

(3) ステム

セファロスポラン酸系抗生物質 : cef-

3. 構造式又は示性式



4. 分子式及び分子量

分子式 : C₁₄H₁₃N₅O₅S₂

分子量 : 395.41

5. 化学名 (命名法)

(6*R*,7*R*)-7-[(*Z*)-2-(2-Aminothiazol-4-yl)-2-(hydroxyimino)acetyl-amino]-8-oxo-3-vinyl-5-thia-1-azabicyclo[4.2.0]oct-2-ene-2-carboxylic acid (IUPAC)

6. 慣用名, 別名, 略号, 記号番号

略号 : CFDN

7. CAS 登録番号

91832-40-5

Ⅲ. 有効成分に関する項目

1. 物理化学的性質

(1) 外観・性状

白色～淡黄色の結晶性の粉末である。（無臭又はわずかに特異なおいがある。）

(2) 溶解性

水，エタノール（95）又はジエチルエーテルにほとんど溶けない。
pH7.0の0.1mol/Lリン酸塩緩衝液に溶ける。

(3) 吸湿性

該当資料なし

(4) 融点（分解点），沸点，凝固点

該当資料なし

(5) 酸塩基解離定数

該当資料なし

(6) 分配係数

該当資料なし

(7) その他の主な示性値

旋光度 $[\alpha]_D^{20}$: $-58 \sim -66^\circ$ (0.25g, pH7.0 の 0.1mol/L リン酸塩緩衝液, 25mL, 100mm)

2. 有効成分の各種条件下における安定性

該当資料なし

3. 有効成分の確認試験法

(1) 紫外可視吸光度測定法

本品及びセフジニル標準品のリン酸塩緩衝液溶液につき吸収スペクトルを測定し，本品のスペクトルとセフジニル標準品のスペクトルを比較するとき，両者のスペクトルは同一波長のところに同様の強度の吸収を認める。

(2) 赤外吸収スペクトル測定法

ペースト法により試験を行い，本品のスペクトルとセフジニル標準品のスペクトルを比較するとき，両者のスペクトルは同一波数のところに同様の強度の吸収を認める。

(3) 核磁気共鳴スペクトル測定法

本品の重水素化ジメチルスルホキシド，重水混液につき ^1H を測定するとき， δ 5.0～6.1ppm 及び δ 6.4～7.5ppm にそれぞれ多重線のシグナル A 及び B を示し，各シグナルの面積強度比 A : B はほぼ 2 : 1 である。

4. 有効成分の定量法

液体クロマトグラフィー


検出器：紫外吸光光度計

移動相：テトラメチルアンモニウムヒドロキシド試液，エチレンジアミン四酢酸二水素二ナトリウム試液，アセトニトリル，メタノール混液

IV. 製剤に関する項目

1. 剤形

(1) 剤形の区別, 外観及び性状

販売名	色調 剤形	形状 号数	本体コード 包装コード
セフジニルカプセル 50mg 「日医工」	淡赤色不透明 硬カプセル剤	 5号	本体：Ⓝ 0305 包装：Ⓝ 0305
セフジニルカプセル 100mg 「日医工」	淡赤色不透明 硬カプセル剤	 4号	本体：Ⓝ 0306 包装：Ⓝ 0306
セフジニル細粒 10% 小児用 「日医工」	淡赤白色 細粒剤	—	—

(2) 製剤の物性

(「IV - 4. 製剤の各種条件下における安定性」の項参照)

(3) 識別コード

(「IV - 1.(1) 剤形の区別, 外観及び性状」の項参照)

(4) pH, 浸透圧比, 粘度, 比重, 無菌の旨及び安定な pH 域等

該当資料なし

2. 製剤の組成

(1) 有効成分 (活性成分) の含量

セフジニルカプセル 50mg 「日医工」 : 1 カプセル中セフジニル 50mg (力価) 含有

セフジニルカプセル 100mg 「日医工」 : 1 カプセル中セフジニル 100mg (力価) 含有

セフジニル細粒 10%小児用 「日医工」 : 1g 中セフジニル 100mg (力価) 含有

(2) 添加物

販売名	添加物
セフジニルカプセル 50mg 「日医工」 セフジニルカプセル 100mg 「日医工」	トウモロコシデンプン, カルメロースカルシウム, 沈降炭酸カルシウム, ラウリル硫酸ナトリウム, ステアリン酸マグネシウム, 二酸化ケイ素 カプセル本体:ゼラチン, 酸化チタン, 三酸化鉄, 黄色三酸化鉄, ラウリル硫酸ナトリウム
セフジニル細粒 10%小児用 「日医工」	白糖, 乳糖, デキストリン, ヒドロキシプロピルセルロース, 二酸化ケイ素, 赤色 102 号, バニリン, 香料

(3) その他

該当記載事項なし

3. 懸濁剤, 乳剤の分散性に対する注意

該当しない

4. 製剤の各種条件下における安定性¹⁾

(1) 長期保存試験

長期保存試験 (25℃) の結果より、セフジニルカプセル 50mg 「日医工」 及びセフジニルカプセル 100mg 「日医工」 は通常の市場流通下において 2 年間安定であることが確認された。

◇セフジニルカプセル 50mg 「日医工」 長期保存試験 (25℃) [最終包装形態 (PTP 包装)]

測定項目 <規格>	ロット 番号	保存期間			
		開始時	6 ヶ月	12 ヶ月	24 ヶ月
性状 <淡赤色不透明の硬カプセル剤, 内容物：白色～淡黄色の粉末>	CEFZO2-A CEFZO2-B CEFZO2-C	適合	適合	適合	適合
確認試験 (紫外可視吸光度測定法)	CEFZO2-A CEFZO2-B CEFZO2-C	適合	適合	適合	適合
質量偏差試験 (%) <15%以下>	CEFZO2-A CEFZO2-B CEFZO2-C	1.9～3.4 2.6～3.6 2.6～3.1	—	—	2.6～4.6 2.2～3.8 2.4～3.8
溶出性 (%) <30 分, 80%以上>	CEFZO2-A CEFZO2-B CEFZO2-C	90.3～99.2 88.9～98.5 89.5～98.9	89.7～ 96.6 90.1～100.6 89.6～ 95.0	88.1～97.6 87.6～97.4 90.6～97.8	88.8～96.3 89.1～97.5 87.7～98.6
含量 (%) ※ <90.0～110.0%>	CEFZO2-A CEFZO2-B CEFZO2-C	99.6～100.2 99.5～101.3 98.5～ 99.8	99.2～100.0 98.8～100.0 99.8～100.1	98.7～98.9 99.7～99.8 98.3～98.6	99.2～99.5 98.7～99.7 98.8～99.1

※：表示量に対する含有率 (%)

◇セフジニルカプセル 100mg 「日医工」 長期保存試験 (25℃) [最終包装形態 (PTP 包装)]

測定項目 <規格>	ロット 番号	保存期間			
		開始時	6 ヶ月	12 ヶ月	24 ヶ月
性状 <淡赤色不透明の硬カプセル剤, 内容物：白色～淡黄色の粉末>	A B C	適合	適合	適合	適合
確認試験 (紫外可視吸光度測定法, 呈色反応)	A B C	適合	適合	適合	適合
質量偏差試験 (%) <15%以下>	A B C	2.8～3.1 2.8～3.3 1.7～3.1	2.7～3.8 2.8～3.7 3.6～4.0	3.1～3.8 2.9～3.8 3.6～3.9	3.0～3.6 4.0～4.4 3.8～4.2
溶出性 (%) <45 分, 75%以上>	A B C	86.4～94.1 84.7～94.3 85.5～92.2	85.0～94.3 81.3～93.6 86.2～93.8	87.9～93.6 88.1～92.3 91.2～92.8	84.9～93.1 84.5～92.6 85.1～92.9
含量 (%) ※ <90.0～120.0%>	A B C	99.6～ 99.9 99.3～100.0 98.6～100.8	99.3～100.1 99.4～ 99.9 99.7～100.1	99.2～99.8 99.2～99.6 99.1～99.2	98.3～99.4 98.7～99.1 98.9～99.4

※：表示量に対する含有率 (%)

(2) 加速試験

本品につき加速試験（40℃・75%RH，6ヵ月）を行った結果，セフジニル細粒 10%小児用「日医工」は通常の市場流通下において3年間安定であることが推測された。

◇セフジニル細粒 10%小児用「日医工」 加速試験 [最終包装形態 (分包包装)]

試験項目 <規格>	ロット 番号	保存期間			
		開始時	1ヵ月	3ヵ月	6ヵ月
性状 <淡赤白色の細粒>	CEFZP-A CEFZP-B CEFZP-C	適合	適合	適合	適合
確認試験 (紫外可視吸光度測定法)	CEFZP-A CEFZP-B CEFZP-C	適合	適合	適合	適合
水分 <1.0%以下>	CEFZP-A CEFZP-B CEFZP-C	0.7~0.8 0.7~0.8 0.7~0.8	0.7 0.7~0.8 0.7~0.8	0.7~0.8 0.7 0.8	0.7~0.8 0.7~0.8 0.7~0.8
質量偏差試験 <15.0%以内>	CEFZP-A CEFZP-B CEFZP-C	3.6~4.7 4.7~5.1 3.3~4.6	—	—	2.4~3.5 2.5~2.7 2.8~3.9
粒度試験 (%) <①18号ふるい全量通過, ②30号ふるいに残留10%以下※1>	CEFZP-A CEFZP-B CEFZP-C	適合	適合	適合	適合
溶出試験 (%) <30分, 75%以上>	CEFZP-A CEFZP-B CEFZP-C	96.3~100.9 96.4~101.1 95.5~100.7	95.9~101.2 95.2~100.9 95.9~100.7	94.2~101.7 94.0~102.1 93.7~101.4	93.9~100.5 93.3~97.9 93.3~99.2
含量 (%) ※2 <93.0~107.0%>	CEFZP-A CEFZP-B CEFZP-C	101.5~101.8 101.2~102.2 100.1~102.1	99.9~100.5 100.9~101.6 100.3~101.1	100.4~100.8 99.8~100.7 100.5~101.5	100.0~100.9 99.5~100.0 99.6~100.1

※1：3回測定最大の残留量 (%) ※2：表示量に対する含有率 (%)

◇セフジニル細粒 10%小児用「日医工」 加速試験 [最終包装形態 (バラ包装)]

試験項目 <規格>	ロット 番号	保存期間			
		開始時	1ヵ月	3ヵ月	6ヵ月
性状 <淡赤白色の細粒>	CEFZP-A CEFZP-B CEFZP-C	適合	適合	適合	適合
確認試験 (紫外可視吸光度測定法)	CEFZP-A CEFZP-B CEFZP-C	適合	適合	適合	適合
水分 <1.0%以下>	CEFZP-A CEFZP-B CEFZP-C	0.7~0.8 0.7~0.8 0.7~0.8	0.7~0.8 0.7~0.8 0.7~0.8	0.7~0.8 0.7~0.8 0.7~0.8	0.7~0.8 0.7~0.8 0.7~0.8
粒度試験 (%) <①18号ふるい全量通過, ②30号ふるいに残留10%以下※1>	CEFZP-A CEFZP-B CEFZP-C	適合	適合	適合	適合
溶出試験 (%) <30分, 75%以上>	CEFZP-A CEFZP-B CEFZP-C	96.3~100.9 96.4~101.1 95.5~100.7	96.0~101.0 96.3~101.4 95.4~100.9	94.8~100.9 97.0~100.6 95.9~100.9	94.4~98.4 94.3~98.9 93.8~100.2
含量 (%) ※2 <93.0~107.0%>	CEFZP-A CEFZP-B CEFZP-C	99.8~100.5 99.1~100.2 98.5~100.6	98.9~100.6 99.6~100.5 99.2~100.0	99.7~100.3 100.1~100.7 99.1~100.5	98.3~100.1 98.8~99.5 99.0~99.4

※1：3回測定最大の残留量 (%) ※2：表示量に対する含有率 (%)

(3) 無包装の安定性試験

◇セフジニルカプセル 50mg 「日医工」 無包装 40°C [遮光, 気密容器]

試験項目 <規格>	ロット 番号	保存期間			
		開始時	1 ヶ月	2 ヶ月	3 ヶ月
性状 <淡赤色の硬カプセル>	UB01	淡赤色の 硬カプセル	淡赤色の 硬カプセル	淡赤色の 硬カプセル	淡赤色の 硬カプセル
溶出性 (%) <30 分, 75%以上>	UB01	97.5	98.1	97.7	99.5
含量 (%) ※ <90.0~110.0%>	UB01	100.7	98.1	99.3	99.8

※：表示量に対する含有率 (%)

◇セフジニルカプセル 50mg 「日医工」 無包装 30°C・75%RH [遮光, 開放]

試験項目 <規格>	ロット 番号	保存期間			
		開始時	1 ヶ月	2 ヶ月	3 ヶ月
性状 <淡赤色の硬カプセル>	UB01	淡赤色の 硬カプセル	淡赤色の 硬カプセル	淡赤色の 硬カプセル	淡赤色の 硬カプセル
溶出性 (%) <30 分, 75%以上>	UB01	97.5	97.3	94.7	97.1
含量 (%) ※ <90.0~110.0%>	UB01	100.7	98.6	97.6	98.2

※：表示量に対する含有率 (%)

◇セフジニルカプセル 50mg 「日医工」 無包装 曝光 [気密容器]

試験項目 <規格>	ロット 番号	総曝光量		
		開始時	80 万 Lx・hr	120 万 Lx・hr
性状 <淡赤色の硬カプセル>	UB01	淡赤色の 硬カプセル	淡赤色の 硬カプセル	淡赤色の 硬カプセル
溶出性 (%) <30 分, 75%以上>	UB01	97.5	98.6	98.6
含量 (%) ※ <90.0~110.0%>	UB01	100.7	100.4	100.0

※：表示量に対する含有率 (%)

◇セフジニルカプセル 100mg 「日医工」 無包装 40℃ [遮光, 気密容器]

試験項目 ＜規格＞	ロット 番号	保存期間			
		開始時	1 ヶ月	2 ヶ月	3 ヶ月
性状 ＜淡赤色の硬カプセル＞	UC01	淡赤色の 硬カプセル	淡赤色の 硬カプセル	淡赤色の 硬カプセル	淡赤色の 硬カプセル
溶出性 (%) ＜45 分, 75%以上＞	UC01	95.7	95.3	97.7	93.0
含量 (%) ※ ＜90.0～120.0%＞	UC01	99.8	99.4	98.0	97.1

※：表示量に対する含有率 (%)

◇セフジニルカプセル 100mg 「日医工」 無包装 30℃・75%RH [遮光, 開放]

試験項目 ＜規格＞	ロット 番号	保存期間			
		開始時	1 ヶ月	2 ヶ月	3 ヶ月
性状 ＜淡赤色の硬カプセル＞	UC01	淡赤色の 硬カプセル	淡赤色の 硬カプセル	淡赤色の 硬カプセル	淡赤色の 硬カプセル
溶出性 (%) ＜45 分, 75%以上＞	UC01	95.7	97.2	97.1	99.2
含量 (%) ※ ＜90.0～120.0%＞	UC01	99.8	100.9	98.3	97.5

※：表示量に対する含有率 (%)

◇セフジニルカプセル 100mg 「日医工」 無包装 曝光 [気密容器]

試験項目 ＜規格＞	ロット 番号	総曝光量		
		開始時	80 万 Lx・hr	120 万 Lx・hr
性状 ＜淡赤色の硬カプセル＞	UC01	淡赤色の 硬カプセル	淡赤色の 硬カプセル	淡赤色の 硬カプセル
溶出性 (%) ＜45 分, 75%以上＞	UC01	95.7	94.2	94.6
含量 (%) ※ ＜90.0～120.0%＞	UC01	99.8	99.7	98.2

※：表示量に対する含有率 (%)

◇セフジニル細粒 10%小児用「日医工」 無包装 40℃ [遮光, 気密容器]

試験項目 <規格>	ロット 番号	保存期間			
		開始時	1 ヶ月	2 ヶ月	3 ヶ月
性状 <淡赤白色の細粒>	TI01	淡赤白色の細粒	淡赤白色の細粒	淡赤白色の細粒	淡赤白色の細粒
溶出性 (%) <30 分, 75%以上>	TI01	100.6	96.9	98.2	96.9
含量 (%) ※ <93.0~107.0%>	TI01	101.6	97.6	97.0	95.6

※：表示量に対する含有率 (%)

◇セフジニル細粒 10%小児用「日医工」 無包装 30℃・75%RH [遮光, 開放]

試験項目 <規格>	ロット 番号	保存期間			
		開始時	1 ヶ月	2 ヶ月	3 ヶ月
性状 <淡赤白色の細粒>	TI01	淡赤白色の細粒	退色, 固化	退色, 固化	退色, 固化
溶出性 (%) <30 分, 75%以上>	TI01	100.6	93.1	96.1	92.3
含量 (%) ※ <93.0~107.0%>	TI01	101.6	96.5	95.5	94.9

※：表示量に対する含有率 (%)

◇セフジニル細粒 10%小児用「日医工」 無包装 曝光 [気密容器]

試験項目 <規格>	ロット 番号	総曝光量		
		開始時	80 万 Lx・hr	120 万 Lx・hr
性状 <淡赤白色の細粒>	TI01	淡赤白色の細粒	淡赤白色の細粒	わずかに退色
溶出性 (%) <30 分, 75%以上>	TI01	100.6	96.2	98.7
含量 (%) ※ <93.0~107.0%>	TI01	101.6	97.9	98.0

※：表示量に対する含有率 (%)

5. 調製法及び溶解後の安定

該当しない

6. 他剤との配合変化（物理化学的变化）²⁾

本項の情報に関する注意：

本項は、本剤の物理化学的安定性に関する情報であり、他剤と配合して使用した際の有効性・安全性についての評価は実施していない。また、配合した他剤の物理化学的安定性については検討していない。本剤を他剤と配合して使用する際には、各薬剤の添付文書を確認し、判断すること。

セフジニル細粒 10%小児用「日医工」の配合変化試験

(1) 医薬品との配合

本品 1g と以下の薬剤を配合し、25°C・75%RH（遮光）容器開放にて保存した。

（スペースの都合上、ドライシロップは DS，成分の水和物は省略して記載。）

薬効	薬剤名,[成分], <配合量>,性状	試験項目	配合直後	1日後	3日後	7日後
解熱鎮痛	ピリナジン末 [アピタミフェン] <0.5g> 白色の散剤	色調・形状	淡赤白色の細粒と白色の散剤の混合物	淡赤白色の細粒と白色の散剤の混合物	淡赤白色の細粒と白色の散剤の混合物	淡赤白色の細粒と白色の散剤の混合物
		湿潤状態	湿潤はなかった	湿潤はなかった	湿潤はなかった	湿潤はなかった
		におい	甘いにおい	甘いにおい	甘いにおい	甘いにおい
		味	甘い	甘い	甘い	甘い
		重量変化率(%)	—	100.47	100.51	100.57
		定量値(%)	99.87	99.44	99.56	98.85
残存率(%)	100.00	99.56	99.68	98.97		
鎮咳・去痰剤	アスピリン散 10% [パロピジンパズ酸塩] <0.4g> 橙色の微粒状の散剤	色調・形状	淡赤白色の細粒とだいたい色の散剤の混合物	淡赤白色の細粒とだいたい色の散剤の混合物	淡赤白色の細粒とだいたい色の散剤の混合物	淡赤白色の細粒とだいたい色の散剤の混合物
		湿潤状態	湿潤はなかった	湿潤はなかった	湿潤はなかった	湿潤はなかった
		におい	甘いにおい	甘いにおい	甘いにおい	甘いにおい
		味	わずかに甘い	わずかに甘い	わずかに甘い	わずかに甘い
		重量変化率(%)	—	100.57	100.74	100.82
		定量値(%)	99.78	99.75	99.55	99.07
残存率(%)	100.00	99.96	99.76	99.28		
気管支拡張剤	ムコダイン DS 50% [カルボシステイン] <1.0g> 白色の微粒状の DS 剤	色調・形状	淡赤白色の細粒と白色の微粒状の混合物	淡赤白色の細粒と白色の微粒状の混合物	淡赤白色の細粒と白色の微粒状の混合物	淡赤白色の細粒と白色の微粒状の混合物
		湿潤状態	湿潤はなかった	湿潤はなかった	湿潤はなかった	湿潤はなかった
		におい	甘いにおい	甘いにおい	甘いにおい	甘いにおい
		味	甘い	甘い	甘い	甘い
		重量変化率(%)	—	100.89	101.64	102.09
		定量値(%)	99.81	99.35	99.92	99.40
残存率(%)	100.00	99.53	100.11	99.58		
気管支拡張剤	ホクナリン DS 0.1%小児用 [プロパテロール塩酸塩] <1.0g> 白色の顆粒状 DS 剤で、においはなく、味は甘い	色調・形状	淡赤白色の細粒と白色の顆粒の混合物	淡赤白色の細粒と白色の顆粒の混合物	淡赤白色の細粒と白色の顆粒の混合物	淡赤白色の細粒と白色の顆粒の混合物
		湿潤状態	湿潤はなかった	湿潤はなかった	湿潤はなかった	湿潤はなかった
		におい	甘いにおい	甘いにおい	甘いにおい	甘いにおい
		味	甘い	甘い	甘い	甘い
		重量変化率(%)	—	100.37	100.39	100.45
		定量値(%)	99.54	99.16	99.84	99.06
残存率(%)	100.00	99.61	100.30	99.51		
気管支拡張剤	メプチン DS 0.005% [プロカテロール塩酸塩] <1.0g> 白色の粉又は粉末で、においはなく、味は甘い	色調・形状	淡赤白色の細粒と白色の粉末の混合物	淡赤白色の細粒と白色の粉末の混合物	淡赤白色の細粒と白色の粉末の混合物	淡赤白色の細粒と白色の粉末の混合物
		湿潤状態	湿潤はなかった	湿潤はなかった	湿潤はなかった	湿潤はなかった
		におい	甘いにおい	甘いにおい	甘いにおい	甘いにおい
		味	甘い	甘い	甘い	甘い
		重量変化率(%)	—	100.37	100.43	100.46
		定量値(%)	98.22	98.17	98.85	98.14
残存率(%)	100.00	99.94	100.64	99.91		
抗ヒスタミン剤	テルギン G DS 0.1% [クレマスタフマル酸塩] <1.0g> 白色の細粒で、芳香があり、味は甘い	色調・形状	淡赤白色の細粒と白色の細粒の混合物	淡赤白色の細粒と白色の細粒の混合物	淡赤白色の細粒と白色の細粒の混合物	淡赤白色の細粒と白色の細粒の混合物
		湿潤状態	湿潤はなかった	湿潤はなかった	湿潤はなかった	湿潤はなかった
		におい	甘いにおい	甘いにおい	甘いにおい	甘いにおい
		味	わずかに甘い	わずかに甘い	わずかに甘い	わずかに甘い
		重量変化率(%)	—	100.37	100.37	100.45
		定量値(%)	99.92	99.10	99.61	99.15
残存率(%)	100.00	99.17	99.68	99.22		

続き

薬効	薬剤名, [成分], <配合量>, 性状	試験項目	配合直後	1日後	3日後	7日後
抗ヒスタミン剤	ニポラジン小児用 細粒 0.6% [メチルピ リドン] <1.0g> 白色～微黄白色の 細粒で、芳香があ り、味は甘い	色調・形状	淡赤白色の細粒と白色 の細粒の混合物	淡赤白色の細粒と白色 の細粒の混合物	淡赤白色の細粒と白色 の細粒の混合物	淡赤白色の細粒と白色 の細粒の混合物
		湿潤状態	湿潤はなかった	湿潤はなかった	湿潤はなかった	湿潤はなかった
		におい	甘いにおい	甘いにおい	甘いにおい	甘いにおい
		味	わずかに甘い	わずかに甘い	わずかに甘い	わずかに甘い
		重量変化率(%)	—	100.55	100.77	100.81
		定量値(%)	99.34	98.68	99.18	99.00
	残存率(%)	100.00	99.33	99.83	99.65	
	ペリアクチン散 1% [プロヘパチン塩酸 塩] <0.4g> 白色の粉末で、 においはない	色調・形状	淡赤白色の細粒と白色 の粉末の混合物	淡赤白色の細粒と白色 の粉末の混合物	淡赤白色の細粒と白色 の粉末の混合物	淡赤白色の細粒と白色 の粉末の混合物
		湿潤状態	湿潤はなかった	湿潤はなかった	湿潤はなかった	湿潤はなかった
		におい	甘いにおい	甘いにおい	甘いにおい	甘いにおい
		味	わずかに甘い	わずかに甘い	わずかに甘い	わずかに甘い
		重量変化率(%)	—	100.51	100.57	100.64
		定量値(%)	99.84	99.74	99.87	99.56
	残存率(%)	100.00	99.89	100.03	99.71	
	ボララミン DS 0.2% [d-カルフェニラミン酸 塩] <1.0g> 淡黄赤色の DS 剤 で、芳香があり、 味は甘い	色調・形状	淡赤白色の細粒と淡黄 赤色の細粒の混合物	淡赤白色の細粒と淡黄 赤色の細粒の混合物	淡赤白色の細粒と淡黄 赤色の細粒の混合物	淡赤白色の細粒と淡黄 赤色の細粒の混合物
		湿潤状態	湿潤はなかった	わずかに凝集が認めら れた	わずかに凝集が認めら れた	わずかに凝集が認めら れた
		におい	甘いにおい	甘いにおい	甘いにおい	甘いにおい
		味	わずかに甘い	わずかに甘い	わずかに甘い	わずかに甘い
重量変化率(%)		—	100.32	100.39	100.46	
定量値(%)		99.60	99.27	99.40	99.12	
残存率(%)	100.00	99.66	99.79	99.51		
抗ブラスミン剤	トラキサミン散 50% [トラキサム酸] <1.0g> 白色の散剤	色調・形状	淡赤白色の細粒と白色 の散剤の混合物	淡赤白色の細粒と白色 の散剤の混合物	淡赤白色の細粒と白色 の散剤の混合物	淡赤白色の細粒と白色 の散剤の混合物
		湿潤状態	湿潤はなかった	湿潤はなかった	湿潤はなかった	湿潤はなかった
		におい	甘いにおい	甘いにおい	甘いにおい	甘いにおい
		味	わずかに甘い	わずかに甘い	わずかに甘い	わずかに甘い
		重量変化率(%)	—	100.41	100.52	100.56
		定量値(%)	99.60	99.13	99.71	99.43
残存率(%)	100.00	99.52	100.11	99.82		
消炎酵素剤	レフトーゼ顆粒 10% [リゾチーム塩酸塩] <1.0g> 白色の顆粒剤で、 においはなく、味 は甘い	色調・形状	淡赤白色の細粒と白色 の顆粒の混合物	淡赤白色の細粒と白色 の顆粒の混合物	淡赤白色の細粒と白色 の顆粒の混合物	淡赤白色の細粒と白色 の顆粒の混合物
		湿潤状態	湿潤はなかった	湿潤はなかった	湿潤はなかった	湿潤はなかった
		におい	甘いにおい	甘いにおい	甘いにおい	甘いにおい
		味	わずかに甘い	わずかに甘い	わずかに甘い	わずかに甘い
		重量変化率(%)	—	100.60	100.86	101.02
		定量値(%)	99.28	98.71	98.96	98.46
残存率(%)	100.00	99.42	99.67	99.17		
整腸剤	エンテロノン-R 散 [耐性乳酸菌] <1.0g> 白色～淡黄色 の粉末	色調・形状	淡赤白色の細粒と白色 の粉末の混合物	淡赤白色の細粒と白色 の粉末の混合物	淡赤白色の細粒と白色 の粉末の混合物	淡赤白色の細粒と白色 の粉末の混合物
		湿潤状態	湿潤はなかった	湿潤はなかった	湿潤はなかった	湿潤はなかった
		におい	甘いにおい	甘いにおい	甘いにおい	甘いにおい
		味	わずかに甘い	わずかに甘い	わずかに甘い	わずかに甘い
		重量変化率(%)	—	101.63	103.66	105.75
		定量値(%)	99.70	99.23	99.85	99.22
	残存率(%)	100.00	99.52	100.15	99.51	
	エントモール散 [耐性乳酸菌] <1.0g> 白色～淡黄色 の散剤	色調・形状	淡赤白色の細粒と白色 の散剤の混合物	淡赤白色の細粒と白色 の散剤の混合物	淡赤白色の細粒と白色 の散剤の混合物	淡赤白色の細粒と白色 の散剤の混合物
		湿潤状態	湿潤はなかった	湿潤はなかった	湿潤はなかった	湿潤はなかった
		におい	甘いにおい	甘いにおい	甘いにおい	甘いにおい
		味	特異な味	特異な味	特異な味	特異な味
		重量変化率(%)	—	101.56	103.42	105.39
定量値(%)		99.64	99.34	100.09	98.89	
残存率(%)	100.00	99.69	100.45	99.24		

続き

薬効	薬剤名,[成分], <配合量>,性状	試験項目	配合直後	1日後	3日後	7日後
整腸剤	ビオフェルミンR 散 [耐性乳酸菌] <1.0g> 白色~わずかに淡 黄褐色の散剤で, においはないか僅 かに特異臭, 味は やや甘い	色調・形状	淡赤白色の細粒と白色 の粉末の混合物	淡赤白色の細粒と白色 の粉末の混合物	淡赤白色の細粒と白色 の粉末の混合物	淡赤白色の細粒と白色 の粉末の混合物
		湿潤状態	湿潤はなかった	湿潤はなかった	湿潤はなかった	湿潤はなかった
		におい	甘いにおい	甘いにおい	甘いにおい	甘いにおい
		味	わずかに甘く特異な味	わずかに甘く特異な味	わずかに甘く特異な味	わずかに甘く特異な味
		重量変化率(%)	—	101.46	102.96	104.55
		定量値(%)	99.91	99.33	99.84	99.25
		残存率(%)	100.00	99.41	99.92	99.33
	ビオフェルミン 配合散 [ラクトン・糖化菌] <3.0g> 白色の粉末で, に おいはないか僅か に特異臭, 味はや や甘い	色調・形状	淡赤白色の細粒と白色 の粉末の混合物	淡赤白色の細粒と白色 の粉末の混合物	淡赤白色の細粒と白色 の粉末の混合物	淡赤白色の細粒と白色 の粉末の混合物
		湿潤状態	湿潤はなかった	湿潤はなかった	湿潤はなかった	湿潤はなかった
		におい	甘いにおい	甘いにおい	甘いにおい	甘いにおい
		味	わずかに甘い	わずかに甘い	わずかに甘い	わずかに甘い
		重量変化率(%)	—	100.86	102.14	104.27
		定量値(%)	100.15	99.94	99.97	99.77
		残存率(%)	100.00	99.79	99.82	99.62
	ミヤ BM 細粒 [宮入菌] <1.0g> 白色~淡灰白色の 細粒剤で, 僅かに 特異臭, 味はやや 甘い	色調・形状	淡赤白色の細粒と白色 の細粒の混合物	淡赤白色の細粒と白色 の細粒の混合物	淡赤白色の細粒と白色 の細粒の混合物	淡赤白色の細粒と白色 の細粒の混合物
		湿潤状態	湿潤はなかった	湿潤はなかった	湿潤はなかった	湿潤はなかった
		におい	甘いにおい	甘いにおい	甘いにおい	甘いにおい
		味	わずかに甘い	わずかに甘い	わずかに甘い	わずかに甘い
		重量変化率(%)	—	100.79	101.33	101.86
		定量値(%)	99.71	99.36	99.75	99.15
残存率(%)		100.00	99.64	100.04	99.43	
ラックビー微粒 N [ビフィズス菌] <2.0g> 白色~灰黄白色の 散剤で, 僅かな甘 みあり	色調・形状	淡赤白色の細粒と白色 の散剤の混合物	淡赤白色の細粒と白色 の散剤の混合物	淡赤白色の細粒と白色 の散剤の混合物	淡赤白色の細粒と白色 の散剤の混合物	
	湿潤状態	湿潤はなかった	湿潤はなかった	湿潤はなかった	湿潤はなかった	
	におい	甘いにおい	甘いにおい	甘いにおい	甘いにおい	
	味	わずかに甘く特異な味	わずかに甘く特異な味	わずかに甘く特異な味	わずかに甘く特異な味	
	重量変化率(%)	—	101.20	103.13	105.55	
	定量値(%)	100.42	99.45	100.05	99.58	
	残存率(%)	100.00	99.03	99.63	99.16	

(2) 嗜好品との配合

本品 1.0g と以下の嗜好品を配合し, 室温 (15~25℃)・室内散光下 (約 400lx) にて保存した。

	商品名<配合量>	試験項目	配合直後	1時間後
1	サントリー天然水 (南アルプス) <25mL>	色調・形状	淡赤白色の細粒が混在する液	淡赤白色の懸濁液
		におい	甘いにおい	甘いにおい
		味	わずかに甘い	わずかに甘い
		定量値(%)	102.79	102.20
		残存率(%)	100.00	99.42
2	天然ミネラル麦茶 <25mL>	色調・形状	淡赤白色の細粒が混在する褐色の液	褐色の懸濁液
		におい	特異なにおい	特異なにおい
		味	わずかに甘く特異な味	わずかに甘く特異な味
		定量値(%)	103.93	104.23
3	おーいお茶 緑茶 <25mL>	色調・形状	淡赤白色の細粒が混在する黄褐色の液	黄褐色の懸濁液
		におい	甘くわずかに特異なにおい	甘くわずかに特異なにおい
		味	特異な味	特異な味
		定量値(%)	95.73	99.09
4	おいしい牛乳 (牛乳) <25mL>	色調・形状	淡赤白色の懸濁液	淡赤白色の懸濁液
		におい	甘いにおい	甘いにおい
		味	甘く特異な味	甘く特異な味
		定量値(%)	97.88	98.07
		残存率(%)	100.00	100.19

続き

	商品名<配合量>	試験項目	配合直後	1時間後
5	明治ほほえみ らくらくキューブ <25mL>	色調・形状	淡赤白色の懸濁液	淡赤白色の懸濁液
		におい	わずかに甘いにおい	わずかに甘いにおい
		味	甘く特異な味	甘く特異な味
		定量値(%)	99.44	99.78
		残存率(%)	100.00	100.34
6	復刻堂 森永ミルクココア <25mL>	色調・形状	暗褐色の懸濁液	暗褐色の懸濁液
		におい	甘いにおい	甘いにおい
		味	甘い	甘い
		定量値(%)	98.19	97.76
		残存率(%)	100.00	99.56
7	オレンジジュース (濃縮還元) [Dole Orange Juice 100%] <25mL>	色調・形状	淡赤白色の細粒が混在する黄色の液	黄色懸濁液
		におい	酸味のあるにおい	酸味のあるにおい
		味	酸味がある	酸味がある
		定量値(%)	102.13	103.38
		残存率(%)	100.00	101.22
8	りんごジュース (濃縮還元) [Dole Apple Juice 100%] <25mL>	色調・形状	淡赤白色の細粒が混在する白色の液	淡赤黄色の懸濁液
		におい	甘いにおい	甘いにおい
		味	甘い	甘い
		定量値(%)	103.14	103.74
		残存率(%)	100.00	100.58
9	ボカリスエット <25mL>	色調・形状	淡赤白色の細粒が混在する懸濁液	淡赤白色の懸濁液(細粒は崩壊)
		におい	特異なにおい	特異なにおい
		味	甘く特異な味	甘く特異な味
		定量値(%)	99.64	100.26
		残存率(%)	100.00	100.62
10	ビーンスターク オーガニックアップル <25mL>	色調・形状	細粒が混在する淡赤黄色の懸濁液	淡赤黄色の懸濁液(細粒は崩壊)
		におい	特異なにおい	特異なにおい
		味	甘い	甘い
		定量値(%)	99.67	100.13
		残存率(%)	100.00	100.46
11	Big プッチンプリン <20g>	色調・形状	淡赤白色の細粒と黄白色の半固形の混合物	淡赤白色と黄白色の混合物 (細粒は崩壊)
		におい	甘いにおい	甘いにおい
		味	甘い	甘い
		定量値(%)	101.13	100.73
		残存率(%)	100.00	99.60
12	明治エッセル スーパーカップ超バナナ <20g>	色調・形状	淡赤白色の細粒と白色の半固形物の混合物	淡赤白色と白色の混合物 (細粒はわずかに崩壊)
		におい	甘いにおい	甘いにおい
		味	甘い	甘い
		定量値(%)	100.74	100.92
		残存率(%)	100.00	100.17
13	ブルガリアヨーグルト <20g>	色調・形状	淡赤白色の細粒と白色の半固形の混合物	淡赤白色と白色の半固形の混合物 (細粒は崩壊)
		におい	特異なにおい	特異なにおい
		味	甘く特異な味	甘く特異な味
		定量値(%)	100.81	100.13
		残存率(%)	100.00	99.32
14	おくすり飲めたね スティックタイプ (イチゴ味) <20g>	色調・形状	淡赤白色の細粒と赤色のゼリーの混合物	淡赤白色と赤色のゼリーの混合物 (細粒は崩壊)
		におい	甘いにおい	甘いにおい
		味	甘い	甘い
		定量値(%)	94.01	94.86
		残存率(%)	100.00	100.90

7. 溶出性

(1) 溶出規格

セフジニルカプセル 50mg「日医工」、セフジニルカプセル 100mg「日医工」及びセフジニル細粒 10%小児用「日医工」は、日本薬局方医薬品各条に定められたセフジニルカプセル並びにセフジニル細粒の溶出規格に適合していることが確認されている。

(試験液に溶出試験第 2 液 900mL を用い、パドル法により、50rpm で試験を行う。)

溶出規格

表示量	規定時間	溶出率
カプセル 50mg (力価)	30 分	80%以上
カプセル 100mg (力価)	45 分	75%以上
細粒 100mg (力価) /1g	30 分	75%以上

(2) 溶出試験³⁾

<セフジニルカプセル 100mg「日医工」>

後発医薬品の生物学的同等性試験ガイドライン等の一部改正について（平成 13 年 5 月 31 日 医薬審発第 786 号）

試験条件

装置：日本薬局方 溶出試験法 パドル法

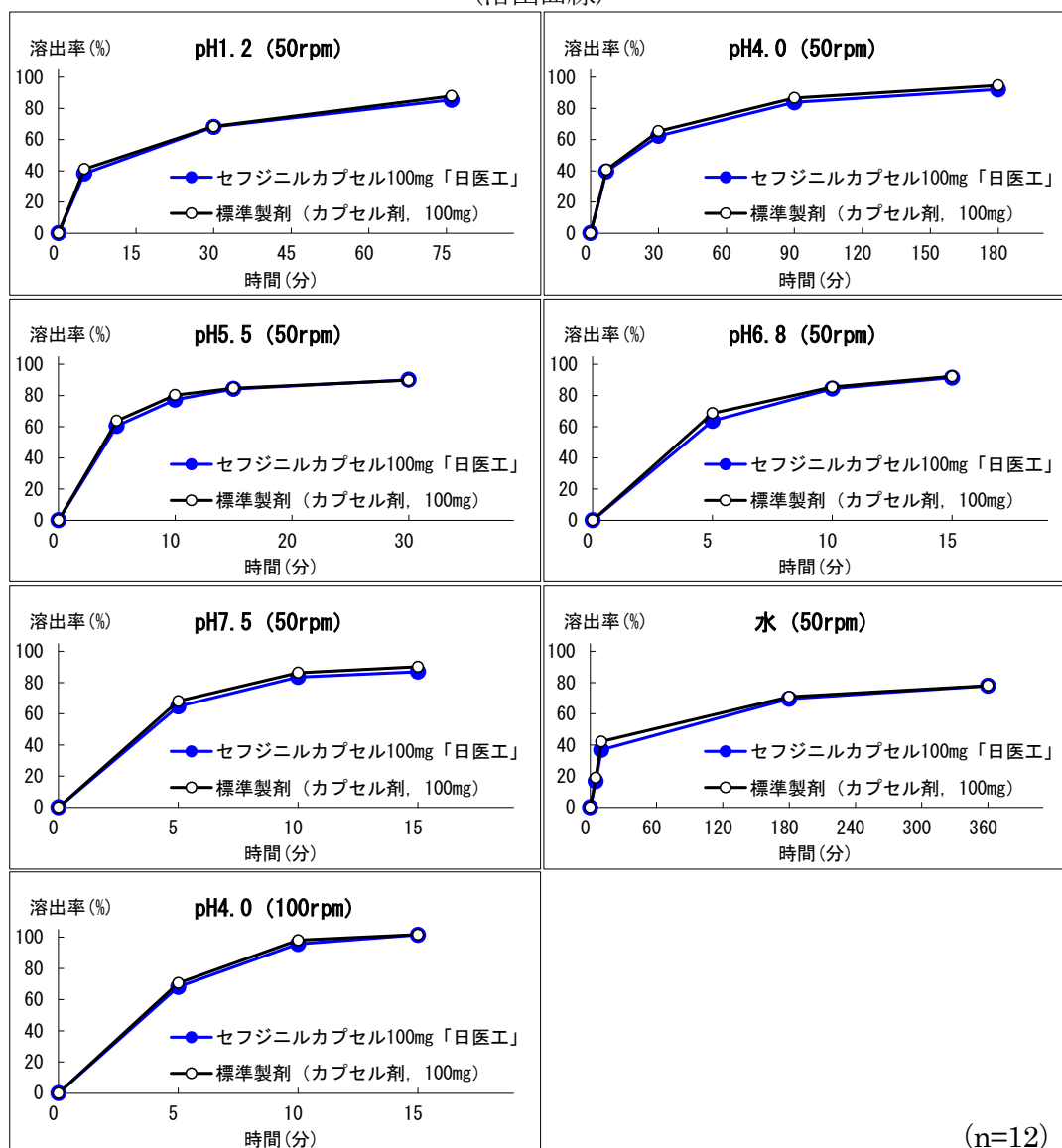
回転数及び試験液：50rpm (pH1.2, pH4.0, pH5.5, pH6.8, pH7.5, 水), 100rpm (pH4.0)

[判定]

- ・ pH1.2 (50rpm) では、標準製剤の平均溶出率が 40%及び 85%付近の 2 時点において、本品の平均溶出率は標準製剤の平均溶出率±15%の範囲にあった。
- ・ pH4.0 (50rpm) では、標準製剤の平均溶出率が 40%及び 85%付近の 2 時点において、本品の平均溶出率は標準製剤の平均溶出率±15%の範囲にあった。
- ・ pH5.5 (50rpm) では、標準製剤の平均溶出率が 60%及び 85%付近の 2 時点において、本品の平均溶出率は標準製剤の平均溶出率±15%の範囲にあった。
- ・ pH6.8 (50rpm) では、標準製剤及び本品はともに 15 分以内に平均 85%以上溶出した。
- ・ pH7.5 (50rpm) では、標準製剤及び本品はともに 15 分以内に平均 85%以上溶出した。
- ・ 水 (50rpm) では、標準製剤が 360 分における平均溶出率の 1/2 の平均溶出率を示す適当な時点及び 360 分において、本品の平均溶出率は標準製剤の平均溶出率±8%及び±15%の範囲にあった。
- ・ pH4.0 (100rpm) では、標準製剤及び本品はともに 15 分以内に平均 85%以上溶出した。

以上、本品の溶出挙動を標準製剤と比較した結果、全ての試験液において「後発医薬品の生物学的同等性試験ガイドライン」の判定基準に適合した。

(溶出曲線)



(n=12)

<セフジニル細粒 10%小児用「日医工」>

後発医薬品の生物学的同等性試験ガイドライン等の一部改正について (平成 13 年 5 月 31 日 医薬審発第 786 号)

試験条件

装置：日本薬局方 溶出試験法 パドル法

回転数及び試験液：50rpm (pH1.2, pH3.0, pH5.5, pH6.8, 水), 100rpm (pH3.0)

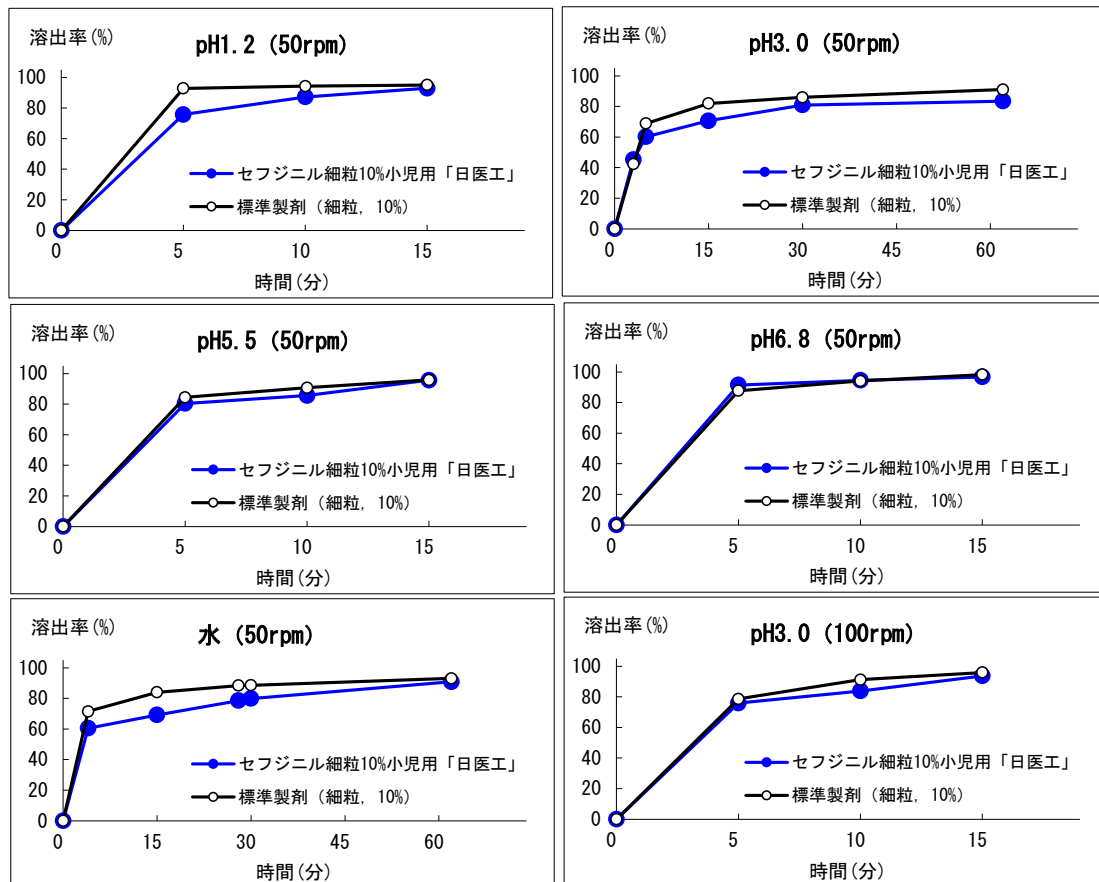
[判定]

- ・ pH1.2 (50rpm) では、標準製剤及び本品はともに 15 分以内に平均 85%以上溶出した。
- ・ pH3.0 (50rpm) では、標準製剤の平均溶出率が 60%及び 85%付近の 2 時点において、本品の平均溶出率は標準製剤の平均溶出率±15%の範囲にあった。
- ・ pH5.5 (50rpm) では、標準製剤及び本品はともに 15 分以内に平均 85%以上溶出した。

- ・ pH6.8 (50rpm) では、標準製剤及び本品はともに 15 分以内に平均 85%以上溶出した。
- ・ 水 (50rpm) では、標準製剤の平均溶出率が 60%及び 85%付近の 2 時点において、本品の平均溶出率は標準製剤の平均溶出率±15%の範囲にあった。
- ・ pH3.0 (100rpm) では、標準製剤及び本品はともに 15 分以内に平均 85%以上溶出した。

以上、本品の溶出挙動を標準製剤と比較した結果、全ての試験液において「後発医薬品の生物学的同等性試験ガイドライン」の判定基準に適合した。

(溶出曲線)



(n=12)

(3) 含量が異なる経口固形製剤の生物学的同等性試験⁴⁾

<セフジニルカプセル 50mg 「日医工」>

セフジニルカプセル 50mg 「日医工」は、「含量が異なる経口固形製剤の生物学的同等性試験ガイドライン（平成 18 年 11 月 24 日 薬食審査発第 1124004 号）」に基づき、セフジニルカプセル 100mg 「日医工」を標準製剤としたとき、溶出挙動が等しく、生物学的に同等とみなされた。

試験条件

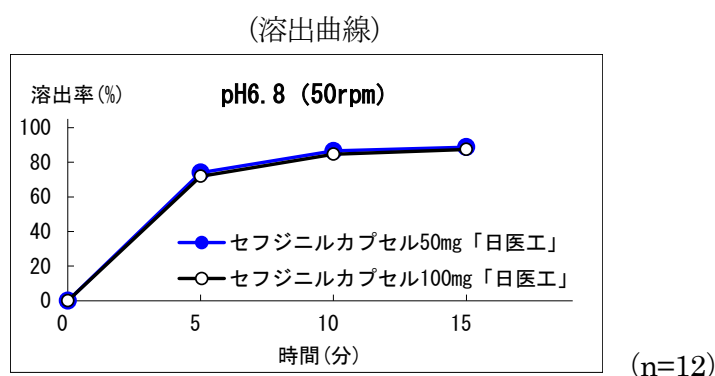
装置：日本薬局方 溶出試験法 パドル法

回転数及び試験液：50rpm (pH6.8)

[判定値]

pH6.8 (50rpm) では、標準製剤及び本品はともに 15 分以内に平均 85%以上溶出した。

また、最終比較時点 (15 分) における本品の個々の溶出率は、本品の平均溶出率±15%の範囲を超えるものが 12 個中 1 個以下で、±25%の範囲を超えるものがなかった。



以上、セフジニルカプセル 50mg 「日医工」の溶出挙動を標準製剤 (セフジニルカプセル 100mg 「日医工」) と比較した結果、「含量が異なる経口固形製剤の生物学的同等性試験ガイドライン」の判定基準に適合したことから、生物学的に同等とみなされた。

8. 生物学的試験法

本剤の力価は、円筒平板法により試験菌 *Bacillus subtilis* ATCC6633 を用いて測定する。

9. 製剤中の有効成分の確認試験法

紫外可視吸光度測定法

本品をリン酸塩緩衝液で溶解した液につき吸収スペクトルを測定するとき、波長 221~225nm 及び 285~289nm に吸収の極大を示す。

10. 製剤中の有効成分の定量法

液体クロマトグラフィー

検出器：紫外吸光光度計

移動相：テトラメチルアンモニウムヒドロキシド試液，エチレンジアミン四酢酸二水素二ナトリウム試液，アセトニトリル，メタノール混液

11. 力価

セフジニル ($C_{14}H_{13}N_5O_5S_2$) としての量を質量 (力価) で示す。

12. 混入する可能性のある夾雑物

該当資料なし

13. 注意が必要な容器・外観が特殊な容器に関する情報

該当しない

14. その他

特になし

V. 治療に関する項目

1. 効能又は効果

＜セフジニルカプセル 50mg 「日医工」，セフジニルカプセル 100mg 「日医工」＞

＜適応菌種＞

本剤に感性のブドウ球菌属，レンサ球菌属，肺炎球菌，淋菌，モラクセラ（ブランハメラ）・カタラーリス，大腸菌，クレブシエラ属，プロテウス・ミラビリス，プロビデンシア属，インフルエンザ菌，ペプトストレプトコッカス属，アクネ菌

＜適応症＞

表在性皮膚感染症，深在性皮膚感染症，リンパ管・リンパ節炎，慢性膿皮症，外傷・熱傷及び手術創等の二次感染，乳腺炎，肛門周囲膿瘍，咽頭・喉頭炎，扁桃炎，急性気管支炎，肺炎，膀胱炎，腎盂腎炎，尿道炎，バルトリン腺炎，子宮内感染，子宮付属器炎，麦粒腫，瞼板腺炎，外耳炎，中耳炎，副鼻腔炎，歯周組織炎，歯冠周囲炎，顎炎

＜効能・効果に関連する使用上の注意＞

咽頭・喉頭炎，扁桃炎，急性気管支炎，中耳炎，副鼻腔炎への使用にあたっては，「抗微生物薬適正使用の手引き」⁵⁾を参照し，抗菌薬投与の必要性を判断した上で，本剤の投与が適切と判断される場合に投与すること。

＜セフジニル細粒 10%小児用 「日医工」＞

＜適応菌種＞

本剤に感性のブドウ球菌属，レンサ球菌属，肺炎球菌，モラクセラ（ブランハメラ）・カタラーリス，大腸菌，クレブシエラ属，プロテウス・ミラビリス，インフルエンザ菌

＜適応症＞

表在性皮膚感染症，深在性皮膚感染症，リンパ管・リンパ節炎，慢性膿皮症，咽頭・喉頭炎，扁桃炎，急性気管支炎，肺炎，膀胱炎，腎盂腎炎，中耳炎，副鼻腔炎，猩紅熱

＜効能・効果に関連する使用上の注意＞

咽頭・喉頭炎，扁桃炎，急性気管支炎，中耳炎，副鼻腔炎への使用にあたっては，「抗微生物薬適正使用の手引き」⁵⁾を参照し，抗菌薬投与の必要性を判断した上で，本剤の投与が適切と判断される場合に投与すること。

2. 用法及び用量

＜セフジニルカプセル 50mg「日医工」、セフジニルカプセル 100mg「日医工」＞

通常、セフジニルとして成人 1 回 100mg（力価）を 1 日 3 回経口投与する。

なお、年齢及び症状に応じて適宜増減する。

＜用法及び用量に関連する使用上の注意＞

- (1) 本剤の使用にあたっては、耐性菌の発現等を防ぐため、原則として感受性を確認し、疾病の治療上必要な最小限の期間の投与にとどめること。
- (2) 高度の腎障害のある患者では血中濃度が持続するので、腎障害の程度に応じて投与量を減量し、投与の間隔をあけて使用すること。血液透析患者では 1 日 100mg1 回投与が望ましい。
- (3) 鉄剤との併用は避けることが望ましい。
やむを得ず併用する場合には、本剤の投与後 3 時間以上間隔をあけて投与する。（「相互作用」の項参照）

＜セフジニル細粒 10%小児用「日医工」＞

通常、小児に対してセフジニルとして 1 日量 9～18mg(力価)/kg を 3 回に分割して経口投与する。

なお、年齢及び症状に応じて適宜増減する。

＜用法及び用量に関連する使用上の注意＞

- (1) 本剤の使用にあたっては、耐性菌の発現等を防ぐため、原則として感受性を確認し、疾病の治療上必要な最小限の期間の投与にとどめること。
- (2) 高度の腎障害のある患者では血中濃度が持続するので、腎障害の程度に応じて投与量を減量し、投与の間隔をあけて使用すること。
- (3) 鉄剤との併用は避けることが望ましい。
やむを得ず併用する場合には、本剤の投与後 3 時間以上間隔をあけて投与する。（「相互作用」の項参照）

3. 臨床成績

(1) 臨床データパッケージ

該当資料なし

(2) 臨床効果

該当資料なし

(3) 臨床薬理試験

該当資料なし

(4) 探索的試験

該当資料なし

(5) 検証的試験

1) 無作為化並行用量反応試験

該当資料なし

2) 比較試験

該当資料なし

3) 安全性試験

該当資料なし

4) 患者・病態別試験

該当資料なし

(6) 治療的使用

1) 使用成績調査・特定使用成績調査（特別調査）・製造販売後臨床試験（市販後臨床試験）

該当資料なし

2) 承認条件として実施予定の内容又は実施した試験の概要

該当しない

VI. 薬効薬理に関する項目

1. 薬理学的に関連のある化合物又は化合物群

セフェム系抗生物質

2. 薬理作用

(1) 作用部位・作用機序⁶⁾

セフジニルの作用点は菌種により異なるが、ペニシリン結合たん白 (PBP) の 1 (1a, 1bs) , 2 及び 3 に親和性が高く、細菌細胞壁の合成を阻害することで抗菌作用を発揮する。

グラム陽性菌及び陰性菌に広範囲な抗菌スペクトルを持ち、特にグラム陽性菌のブドウ球菌属、レンサ球菌属などに対して従来の経口用セフェム剤よりも強く、殺菌的に作用する。

β -ラクタマーゼに安定で、 β -ラクタマーゼ産生菌にもすぐれた抗菌力を示す。

(2) 薬効を裏付ける試験成績

該当資料なし

(3) 作用発現時間・持続時間

該当資料なし

VII. 薬物動態に関する項目

1. 血中濃度の推移・測定法

(1) 治療上有効な血中濃度

該当資料なし

(2) 最高血中濃度到達時間

(「臨床試験で確認された血中濃度」の項参照)

(3) 臨床試験で確認された血中濃度

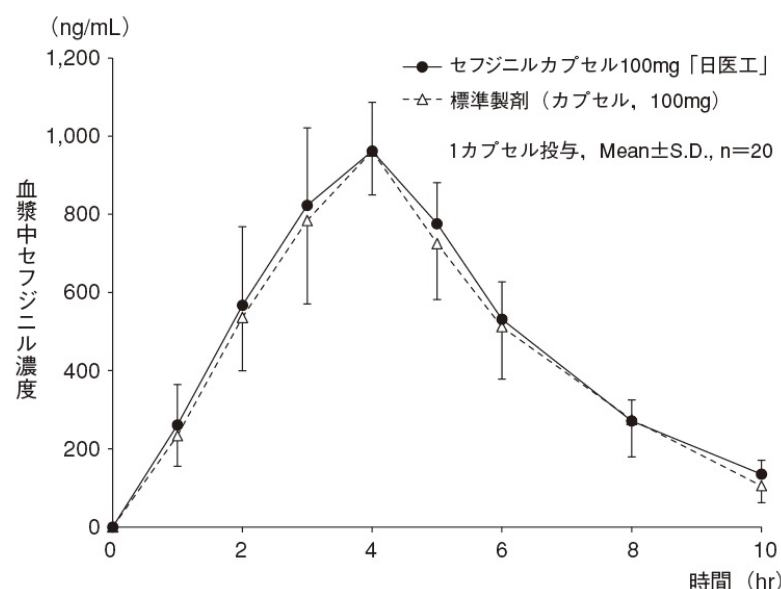
<セフジニルカプセル 50mg 「日医工」>⁴⁾

セフジニルカプセル 50mg 「日医工」は、「含量が異なる経口固形製剤の生物学的同等性試験ガイドライン (平成 18 年 11 月 24 日 薬食審査発第 1124004 号)」に基づき、セフジニルカプセル 100mg 「日医工」を標準製剤としたとき、溶出挙動が等しく、生物学的に同等とみなされた。

<セフジニルカプセル 100mg 「日医工」>⁷⁾

後発医薬品の生物学的同等性試験ガイドライン等の一部改正について (平成 18 年 11 月 24 日 薬食審査発第 1124004 号)

セフジニルカプセル 100mg 「日医工」及び標準製剤を、クロスオーバー法によりそれぞれ 1 カプセル (セフジニルとして 100mg (力価)) 健康成人男子に絶食単回経口投与して血漿中セフジニル濃度を測定し、得られた薬物動態パラメータ (AUC, Cmax) について 90%信頼区間法にて統計解析を行った結果、 $\log(0.8) \sim \log(1.25)$ の範囲内であり、両剤の生物学的同等性が確認された。



[薬物速度論的パラメータ]

	判定パラメータ		参考パラメータ	
	AUCt (ng·hr/mL)	Cmax (ng/mL)	Tmax (hr)	t _{1/2} (hr)
セフジニルカプセル 100mg 「日医工」	4864.82±582.85	984.11±113.494	3.9±0.30779	2.07516±0.5044
標準製剤 (カプセル, 100mg)	4664.29±776.308	976.4±111.155	3.9±0.44721	1.96841±0.50031

(1カプセル投与, Mean±S.D., n=20)

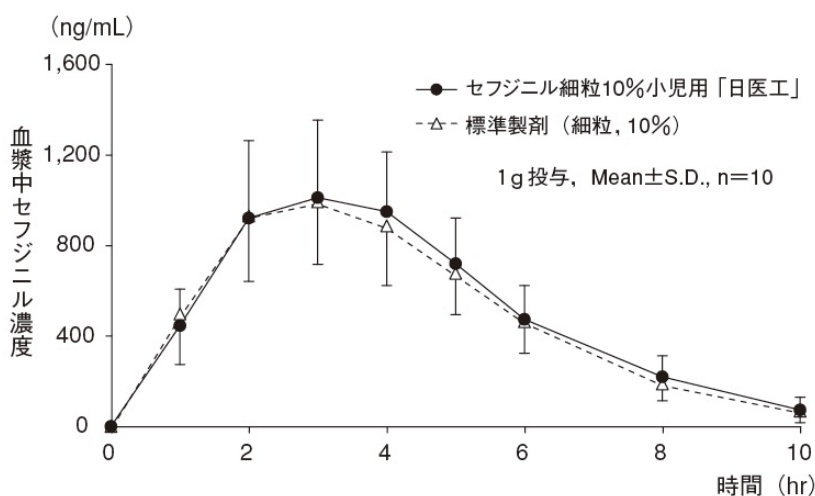
血漿中濃度並びに AUC, Cmax 等のパラメータは、被験者の選択、体液の採取回数・時間等の試験条件によって異なる可能性がある。

<セフジニル細粒 10%小児用「日医工」>⁷⁾

後発医薬品の生物学的同等性試験ガイドライン等の一部改正について（平成 13 年 5 月 31 日 医薬審発第 786 号）

セフジニル細粒 10%小児用「日医工」及び標準製剤を，クロスオーバー法によりそれぞれ 1g（セフジニルとして 100mg（力価））健康成人男子に絶食単回経口投与して血漿中セフジニル濃度を測定し，得られた薬物動態パラメータ（AUC, Cmax）について 90%信頼区間法にて統計解析を行った結果， $\log(0.8)\sim\log(1.25)$ の範囲内であり，両剤の生物学的同等性が確認された。

（注意：本剤は小児用製剤である。）



[薬物速度論的パラメータ]

	判定パラメータ		参考パラメータ	
	AUCt (ng·hr/mL)	Cmax (ng/mL)	Tmax (hr)	t _{1/2} (hr)
セフジニル細粒 10%小児用「日医工」	5263.24±1369.34	1055.10±294.682	3.3±0.48305	1.59826±0.27031
標準製剤 (細粒, 10%)	5115.97±1369.54	1003.65±273.069	3.0±0.66667	1.54819±0.18327

(1g 投与, Mean±S.D., n=10)

血漿中濃度並びに AUC, Cmax 等のパラメータは，被験者の選択，体液の採取回数・時間等の試験条件によって異なる可能性がある。

(4) 中毒域

該当資料なし

(5) 食事・併用薬の影響

（「Ⅷ - 7. 相互作用」の項参照）

(6) 母集団（ポピュレーション）解析により判明した薬物体内動態変動要因

該当資料なし

2. 薬物速度論的パラメータ

(1) 解析方法

該当資料なし

(2) 吸収速度定数

該当資料なし

(3) バイオアベイラビリティ

該当資料なし

(4) 消失速度定数

該当資料なし

(5) クリアランス

該当資料なし

(6) 分布容積

該当資料なし

(7) 血漿蛋白結合率

該当資料なし

3. 吸収

該当資料なし

4. 分布

(1) 血液-脳関門通過性

該当資料なし

(2) 血液-胎盤関門通過性

(「VIII - 10. 妊婦, 産婦, 授乳婦等への投与」の項参照)

(3) 乳汁への移行性

該当資料なし

(4) 髄液への移行性

該当資料なし

(5) その他の組織への移行性

該当資料なし

5. 代謝

(1) 代謝部位及び代謝経路

該当資料なし

(2) 代謝に関与する酵素 (CYP450 等) の分子種

該当資料なし

(3) 初回通過効果の有無及びその割合

該当資料なし

(4) 代謝物の活性の有無及び比率

該当資料なし

(5) 活性代謝物の速度論的パラメータ

該当資料なし

6. 排泄

(1) 排泄部位及び経路

該当資料なし

(2) 排泄率

該当資料なし

(3) 排泄速度

該当資料なし

7. トランスポーターに関する情報

該当資料なし

8. 透析等による除去率

該当資料なし

Ⅷ. 安全性（使用上の注意等）に関する項目

1. 警告内容とその理由

該当記載事項なし

2. 禁忌内容とその理由（原則禁忌を含む）

【禁忌（次の患者には投与しないこと）】

本剤の成分に対し過敏症の既往歴のある患者

【原則禁忌（次の患者には投与しないことを原則とするが、特に必要とする場合には慎重に投与すること）】

セフェム系抗生物質に対し過敏症の既往歴のある患者

3. 効能又は効果に関連する使用上の注意とその理由

（「Ⅴ. 治療に関する項目」を参照）

4. 用法及び用量に関連する使用上の注意とその理由

（「Ⅴ. 治療に関する項目」を参照）

5. 慎重投与内容とその理由

【慎重投与（次の患者には慎重に投与すること）】

- （1）ペニシリン系抗生物質に対し、過敏症の既往歴のある患者
- （2）本人又は両親、兄弟に気管支喘息、発疹、蕁麻疹等のアレルギー症状を起こしやすい体質を有する患者
- （3）高度の腎障害のある患者（「用法及び用量に関連する使用上の注意」の項参照）
- （4）経口摂取の不良な患者又は非経口栄養の患者、全身状態の悪い患者〔ビタミン K 欠乏症状があらわれることがあるので、観察を十分に行うこと。〕

<カプセル 50mg/100mg>

- （5）高齢者（「高齢者への投与」の項参照）

6. 重要な基本的注意とその理由及び処置方法

ショックがあらわれるおそれがあるので、十分な問診を行うこと。

7. 相互作用

（1）併用禁忌とその理由

該当記載事項なし

（2）併用注意とその理由

併用注意（併用に注意すること）

薬剤名等	臨床症状・措置方法	機序・危険因子
鉄剤	本剤の吸収を約 10 分の 1 まで阻害するので、併用は避けることが望ましい。やむを得ず併用する場合には、本剤の投与後 3 時間以上間隔をあけて投与する。	腸管内において鉄イオンとほとんど吸収されない錯体を形成する。
ワルファリンカリウム	ワルファリンカリウムの作用が増強されるおそれがある。ただし、本剤に関する症例報告はない。	腸内細菌によるビタミン K の産生を抑制することがある。
制酸剤（アルミニウム又はマグネシウム含有）	本剤の吸収が低下し、効果が減弱されるおそれがあるので、本剤の投与後 2 時間以上間隔をあけて投与する。	機序不明

8. 副作用

(1) 副作用の概要

本剤は使用成績調査等の副作用発現頻度が明確となる調査を実施していない。

(2) 重大な副作用と初期症状 (頻度不明)

- 1) **ショック**：ショックを起こすことがあるので、観察を十分に行い、不快感、口内異常感、喘鳴、眩暈、便意、耳鳴、発汗等があらわれた場合には投与を中止し、適切な処置を行うこと。
- 2) **アナフィラキシー**：アナフィラキシー（呼吸困難、全身潮紅、血管浮腫、蕁麻疹等）があらわれることがあるので、観察を十分に行い、異常が認められた場合には投与を中止し、適切な処置を行うこと。
- 3) **皮膚障害**：中毒性表皮壊死融解症（Toxic Epidermal Necrolysis：TEN）、皮膚粘膜眼症候群（Stevens - Johnson 症候群）があらわれることがあるので、観察を十分に行い、発熱、頭痛、関節痛、皮膚や粘膜の紅斑・水疱、皮膚の緊張感・灼熱感・疼痛等が認められた場合には投与を中止し、適切な処置を行うこと。
- 4) **血液障害**：汎血球減少、無顆粒球症（初期症状：発熱、咽頭痛、頭痛、倦怠感等）、血小板減少（初期症状：点状出血、紫斑等）、溶血性貧血（初期症状：発熱、ヘモグロビン尿、貧血症状等）があらわれることがあるので、定期的に検査を行うなど観察を十分に行い、異常が認められた場合には投与を中止し、適切な処置を行うこと。
- 5) **大腸炎**：偽膜性大腸炎等の血便を伴う重篤な大腸炎があらわれることがある。腹痛、頻回の下痢があらわれた場合には直ちに投与を中止し、適切な処置を行うこと。
- 6) **間質性肺炎、PIE 症候群**：発熱、咳嗽、呼吸困難、胸部 X 線異常、好酸球増多等を伴う間質性肺炎、PIE 症候群等があらわれることがあるので、このような症状があらわれた場合には投与を中止し、副腎皮質ホルモン剤の投与等の適切な処置を行うこと。
- 7) **腎障害**：急性腎障害等の重篤な腎障害があらわれることがあるので、定期的に検査を行うなど観察を十分に行い、異常が認められた場合には投与を中止し、適切な処置を行うこと。
- 8) **劇症肝炎、肝機能障害、黄疸**：劇症肝炎等の重篤な肝炎、著しいAST (GOT)、ALT (GPT)、Al - Pの上昇等を伴う肝機能障害、黄疸があらわれることがあるので、定期的に検査を行うなど観察を十分に行い、異常が認められた場合には投与を中止し、適切な処置を行うこと。

(3) その他の副作用

	頻度不明
過敏症 ^{注)}	発疹、蕁麻疹、そう痒、発熱、浮腫、紅斑
血液	好酸球増多、顆粒球減少
腎臓	BUN 上昇
消化器	下痢、腹痛、胃部不快感、悪心、嘔吐、胸やけ、食欲不振、便秘
菌交代症	口内炎、カンジダ症、黒毛舌
ビタミン欠乏症	ビタミン K 欠乏症状（低プロトロンビン血症、出血傾向等）、 ビタミン B 群欠乏症状（舌炎、口内炎、食欲不振、神経炎等）
その他	めまい、頭痛、胸部圧迫感、しびれ

注：発現した場合には、投与を中止し、適切な処置を行うこと。

(4) 項目別副作用発現頻度及び臨床検査値異常一覧

該当資料なし

(5) 項目別副作用発現頻度及び臨床検査値異常一覧

該当資料なし

(6) 基礎疾患、合併症、重症度及び手術の有無等背景別の副作用発現頻度

該当資料なし

(7) 薬物アレルギーに対する注意及び試験法

- 1) **禁忌**：本剤の成分に対し過敏症の既往歴のある患者には投与しないこと。
- 2) **原則禁忌**：セフェム系抗生物質に対し過敏症の既往歴のある患者には投与しないことを原則とするが、特に必要とする場合には慎重に投与すること。
- 3) **慎重投与**：①ペニシリン系抗生物質に対し、過敏症の既往歴のある患者には慎重に投与すること。②本人又は両親、兄弟に気管支喘息、発疹、蕁麻疹等のアレルギー症状を起こしやすい体質を有する患者には慎重に投与すること。
- 4) **重要な基本的注意**：**ショック**があらわれるおそれがあるので、十分な問診を行うこと。
- 5) **重大な副作用**：①ショックを起こすことがあるので、観察を十分に行い、不快感、口内異常感、喘鳴、眩暈、便意、耳鳴、発汗等があらわれた場合には投与を中止し、適切な処置を行うこと。②アナフィラキシー（呼吸困難、全身潮紅、血管浮腫、蕁麻疹等）があらわれることがあるので、観察を十分に行い、異常が認められた場合には投与を中止し、適切な処置を行うこと。③中毒性表皮壊死融解症（Toxic Epidermal Necrolysis：TEN）、皮膚粘膜眼症候群（Stevens - Johnson 症候群）があらわれることがあるので、観察を十分に行い、発熱、頭痛、関節痛、皮膚や粘膜の紅斑・水疱、皮膚の緊張感・灼熱感・疼痛等が認められた場合には投与を中止し、適切な処置を行うこと。
- 6) **その他の副作用**：過敏症（発疹、蕁麻疹、そう痒、発熱、浮腫、紅斑）が発現した場合には、投与を中止し、適切な処置を行うこと。

9. 高齢者への投与

<カプセル 50mg/100mg>

高齢者には次の点に注意し、用量並びに投与間隔に留意するなど患者の状態を観察しながら、慎重に投与すること。

- (1) 高齢者では生理機能が低下していることが多く、副作用が発現しやすい。
- (2) 高齢者ではビタミンK欠乏による出血傾向があらわれることがある。

10. 妊婦、産婦、授乳婦等への投与

<カプセル 50mg/100mg>

妊婦又は妊娠している可能性のある婦人には、治療上の有益性が危険性を上回ると判断される場合にのみ投与すること。〔妊娠中の投与に関する安全性は確立していない。〕

11. 小児等への投与

<カプセル 50mg/100mg>

小児等に対する安全性は確立していない。(使用経験が少ない。)

<細粒 10%>

低出生体重児，新生児に対する安全性は確立していない。(使用経験が少ない。)

12. 臨床検査結果に及ぼす影響

- (1) テステープ反応を除くベネディクト試薬，フェーリング試薬による尿糖検査では偽陽性を呈することがあるので注意すること。
- (2) 直接クームス試験陽性を呈することがあるので注意すること。

13. 過量投与

該当記載事項なし

14. 適用上の注意

<カプセル 50mg/100mg>

薬剤交付時：PTP包装の薬剤はPTPシートから取り出して服用するよう指導すること。(PTPシートの誤飲により，硬い鋭角部が食道粘膜へ刺入し，更には穿孔をおこして縦隔洞炎等の重篤な合併症を併発することが報告されている。)

15. その他の注意

- (1) 粉ミルク，経腸栄養剤など鉄添加製品との併用により，便が赤色調を呈することがある。
- (2) 尿が赤色調を呈することがある。

16. その他

該当記載事項なし

IX. 非臨床試験に関する項目

1. 薬理試験

(1) 薬効薬理試験（「VI. 薬効薬理に関する項目」参照）

(2) 副次的薬理試験

該当資料なし

(3) 安全性薬理試験

該当資料なし

(4) その他の薬理試験

該当資料なし

2. 毒性試験

(1) 単回投与毒性試験

該当資料なし

(2) 反復投与毒性試験

該当資料なし

(3) 生殖発生毒性試験

該当資料なし

(4) その他の特殊毒性

該当資料なし

X. 管理的事項に関する項目

1. 規制区分

製 剤	セフジニルカプセル 50mg 「日医工」 セフジニルカプセル 100mg 「日医工」 セフジニル細粒 10%小児用 「日医工」	処方箋医薬品（注意 - 医師等の処方箋により 使用すること。）
有効成分	セフジニル	なし

2. 有効期間又は使用期限

外箱等に表示の使用期限内に使用すること。

（カプセル 50mg/100mg 2年：安定性試験結果に基づく）

（細粒 10% 3年：安定性試験結果に基づく）

3. 貯法・保存条件

カプセル 50mg/100mg 室温保存

細粒 10% 気密容器で室温保存，遮光保存

4. 薬剤取扱い上の注意点

（1）薬局での取り扱い上の留意点について

（「規制区分」，「有効期間又は使用期限」，「貯法・保存条件」の項参照）

（2）薬剤交付時の取扱いについて（患者等に留意すべき必須事項等）

くすりのしおり：有

（「Ⅷ. 安全性（使用上の注意等）」に関する項目」を参照）

（3）調剤時の留意点について

該当記載事項なし

5. 承認条件等

該当しない

6. 包装

販売名	包装
セフジニルカプセル 50mg 「日医工」	100 カプセル（10 カプセル×10；PTP）
セフジニルカプセル 100mg 「日医工」	100 カプセル（10 カプセル×10；PTP） 500 カプセル（10 カプセル×50；PTP）
セフジニル細粒 10%小児用 「日医工」	0.5g×120 包（分包），100g（バラ）

7. 容器の材質

PTP 包装：ポリ塩化ビニルフィルム，アルミニウム箔

分包包装：複層フィルム（セロファン／ポリエチレン）

バラ包装：ポリエチレン製容器，ポリプロピレン製キャップ

8. 同一成分・同効薬

同一成分：セフゾンカプセル 50mg/100mg，セフゾン細粒小児用 10%

9. 国際誕生年月日

不明

10. 製造販売承認年月日及び承認番号

販売名	製造承認年月日	承認番号
セフジニルカプセル 50mg 「日医工」	2009年 1月 8日	22100AMX00031000
セフジニルカプセル 100mg 「日医工」	2007年 6月 29日	21900AMX00973000
セフジニル細粒 10%小児用 「日医工」	2007年 3月 15日	21900AMX00612000

11. 薬価基準収載年月日

販売名	薬価基準収載年月日
セフジニルカプセル 50mg 「日医工」	2009年 5月 15日
セフジニルカプセル 100mg 「日医工」	2009年 5月 15日
セフジニル細粒 10%小児用 「日医工」	2008年 11月 7日

12. 効能又は効果追加, 用法及び用量変更追加等の年月日及びその内容

該当しない

13. 再審査結果, 再評価結果公表年月日及びその内容

該当しない

14. 再審査期間

該当しない

15. 投与期間制限医薬品に関する情報

本剤は, 投薬期間制限の対象となる医薬品ではない。

(「V. 治療に関する項目」を参照)

16. 各種コード

販売名	薬価基準収載 医薬品コード	レセプト 電算コード	HOT(9桁) コード
セフジニルカプセル 50mg 「日医工」	6132013M1096	620009336	119151601
セフジニルカプセル 100mg 「日医工」	6132013M2114	620009341	119153001
セフジニル細粒 10%小児用 「日医工」	6132013C1082	620008484	118893601

17. 保険給付上の注意

セフジニル細粒 10%小児用 「日医工」 は, 保険診療上の後発医薬品である。

X I. 文献

1. 引用文献

- 1) 日医工株式会社 社内資料 (安定性試験)
- 2) 日医工株式会社 社内資料 (配合変化試験 ; 細粒)
- 3) 日医工株式会社 社内資料 (溶出試験 ; 100mg, 細粒)
- 4) 日医工株式会社 社内資料 (生物学的同等性試験 ; 50mg)
- 5) 厚生労働省健康局結核感染症課編 : 抗微生物薬適正使用の手引き
- 6) 第十七改正日本薬局方解説書, C - 2724, 廣川書店, 東京 (2016)
- 7) 日医工株式会社 社内資料 (生物学的同等性試験 ; 100mg, 細粒)

2. その他の参考文献

なし

X II. 参考資料

1. 主な外国での発売状況

なし

2. 海外における臨床支援情報

なし

XIII. 備考

1. 調剤・服薬支援に際して臨床判断を行うにあたっての参考情報

本項の情報に関する注意

本項には承認を受けていない品質に関する情報が含まれる。

試験方法等が確立していない内容も含まれており、あくまでも記載されている試験方法で得られた結果を事実として提示している。

医療従事者が臨床適用を検討する上での参考情報であり、加工等の可否を示すものではない。

(1) 粉砕

セフジニルカプセル 50mg/100mg 「日医工」， セフジニル細粒 10%小児用 「日医工」

該当資料なし

(2) 崩壊・懸濁性及び経管投与チューブの通過性

セフジニルカプセル 50mg 「日医工」

1) 試験方法

[崩壊懸濁試験]

ディスペンサーのピストン部を抜き取り、検体1個をディスペンサー内に入れてピストンを戻し、約55℃の温湯20mLを吸い取った。ディスペンサーに蓋をして5分間放置後、ディスペンサーを手で15往復横転し、崩壊懸濁の状況を観察した。十分な崩壊が認められない場合は、更に5分間放置後、同様の操作を行い、崩壊懸濁の状況を観察した。

上記の操作で十分な崩壊懸濁が認められない場合は、カプセルを開封し、内容物を用いて同様の操作を行い、崩壊懸濁の状況を観察した。

[通過性試験]

懸濁液の入ったディスペンサーを経管チューブに接続し、約2~3mL/秒の速度で注入した。チューブは体内挿入端から約3分の2を水平にし、注入端をその約30cm上の高さに固定した。懸濁液を注入後に適量の常水を注入してチューブ内を濯ぐとき、チューブ内に残存物が認められなければ通過性に問題なしとした。

試験実施期間：2009/4/22

ロット番号：UC01

2) 試験結果

	崩壊懸濁試験	通過性試験
セフジニルカプセル 50mg 「日医工」	5分以内に崩壊・懸濁した。	8Fr.チューブを通過した。

本試験は、「内服薬 経管投与ハンドブック（（株）じほう）」に準じて実施しました。

セフジニルカプセル 100mg 「日医工」

1) 試験方法

[崩壊懸濁試験]

ディスペンサーのピストン部を抜き取り, 検体 1 個をディスペンサー内に入れてピストンを戻し, 約 55°Cの温湯 20mL を吸い取った。ディスペンサーに蓋をして 5 分間放置後, ディスペンサーを手で 15 往復横転し, 崩壊懸濁の状況を観察した。十分な崩壊が認められない場合は, 更に 5 分間放置後, 同様の操作を行い, 崩壊懸濁の状況を観察した。

上記の操作で十分な崩壊懸濁が認められない場合は, カプセルを開封し, 内容物を用いて同様の操作を行い, 崩壊懸濁の状況を観察した。

[通過性試験]

懸濁液の入ったディスペンサーを経管チューブに接続し, 約 2~3mL/秒の速度で注入した。チューブは体内挿入端から約 3 分の 2 を水平にし, 注入端をその約 30cm 上の高さに固定した。懸濁液を注入後に適量の常水を注入してチューブ内を濯ぐとき, チューブ内に残存物が認められなければ通過性に問題なしとした。

試験実施期間 : 2009/4/22

ロット番号 : UC01

2) 試験結果

	崩壊懸濁試験	通過性試験
セフジニルカプセル 100mg 「日医工」	5 分以内に崩壊・懸濁した。	8Fr.チューブを通過した。

本試験は, 「内服薬 経管投与ハンドブック (株) じほう」 に準じて実施しました。

セフジニル細粒 10%小児用「日医工」

1) 試験方法

[崩壊懸濁試験]

検体 1g を容器にとり、約 55°Cの温湯 20mL を加え軽く攪拌し、放置後の崩壊懸濁の状況を観察した。

上記の操作で十分な崩壊懸濁が認められない場合は、検体 1g を分包し、上から乳棒で数回軽く叩いて検体を破壊し、同様の操作を行い、崩壊懸濁の状況を観察した。

[通過性試験]

懸濁液の入ったディスペンサーを経管チューブに接続し、約 2~3mL/秒の速度で注入した。チューブは体内挿入端から約 3 分の 2 を水平にし、注入端をその約 30cm 上の高さに固定した。懸濁液を注入後に適量の常水を注入してチューブ内を濯ぐとき、チューブ内に残存物が認められなければ通過性に問題なしとした。

試験実施期間：2008/11/18

ロット番号：JU0402

2) 試験結果

	崩壊懸濁試験	通過性試験
セフジニル細粒 10% 小児用「日医工」	5 分以内に溶解・懸濁した。	8Fr.チューブを通過した。

本試験は、「内服薬 経管投与ハンドブック（株）じほう」を一部改変して実施しました。

2. その他の関連資料

なし